



ユーティリティ

概要

このモジュールでは、次のユーティリティについて説明します。

- セットアップ ユーティリティ コマンド
- ファイル操作ユーティリティ コマンド
- ユーザ ログ ユーティリティ コマンド

セットアップ コマンド

- 「セットアップ コマンド パラメータ」 (P.4-1)
- 「セットアップ コマンドの入力」 (P.4-4)
- 「セットアップ ユーティリティでのリストの定義」 (P.4-4)

セットアップ コマンド パラメータ

セットアップ ユーティリティは、基本的な設定プロセスを 1 ステップずつ実行できる対話形式のウィザードです。このユーティリティは、ローカル端末を初めて接続したときに自動的に実行されます。また、システム設定を変更するために、Telnet またはローカル端末を使用してこのユーティリティを明示的に起動することもできます。

表 4-1 に、セットアップ ユーティリティのすべてのコマンド パラメータを示します。

表 4-1 セットアップ コマンド パラメータ

パラメータ	定義
IP address	SCE プラットフォームの IP アドレス。
subnet mask	SCE プラットフォームのサブネット マスク。
default gateway	デフォルト ゲートウェイ。
hostname	SCE プラットフォームの識別に使用される文字列。最大 20 文字です。
admin password	Admin レベルのパスワード。 英文字で始まる 4 ~ 100 文字の文字列です。

表 4-1 セットアップコマンドパラメータ (続き)

パラメータ	定義
.root password	Root レベルのパスワード。 英文字で始まる 4 ~ 100 文字の文字列です。
password encryption status	パスワード暗号化のイネーブル化/ディセーブル化。
時間設定	
time zone name and offset	標準タイムゾーンの省略形および UTC (協定世界時) からのオフセット (分)。
local time and date	現在のローカル時刻および日付。フォーマットは次のとおりです。 00:00:00 1 January 2007
SNTP 設定	
broadcast client status	SNTP ブロードキャストクライアントのステータスを設定します。 イネーブルの場合、SCE はそのローカル時刻を SNTP ブロードキャストサーバから受信した更新に同期させます。
unicast query interval	更新に関するユニキャスト要求の秒単位のインターバル (64 ~ 1024)。
unicast server IP address	SNTP ユニキャストサーバの IP アドレス。
DNS の設定	
DNS lookup status	IP DNS ベース ホスト名変換のイネーブル化/ディセーブル化。
default domain name	修飾されていないホスト名を完成するために使用されるデフォルトドメイン名。
IP address	ドメインネームサーバの IP アドレス (最大 3 サーバ)。
RDR フォーマッタ送信先の設定	
IP address	RDR フォーマッタ送信先の IP アドレス。
TCP port number	RDR フォーマッタ送信先の TCP ポート番号。
Access Control List (ACL; アクセス制御リスト)	
Access Control List number	必要な ACL 数。管理インターフェイスごとにアクセスを許可/拒否する IP アドレスを決定します。次のアクセスに対して ACL を設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> すべての IP アクセス Telnet アクセス SNMP GET アクセス SNMP SET アクセス
list entries (maximum 20 per list)	IP アドレス、アクセスの許可/拒否。
IP access ACL	IP アクセスを制御する ACL の ID 番号。
telnet ACL	Telnet アクセスを制御する ACL の ID 番号。
SNMP の設定	
SNMP agent status	SNMP エージェントのステータス。SNMP 管理をイネーブルにするかディセーブルにするかを指定します。
GET community names	GET アクセスを許可するコミュニティストリング、および対応する ACL (最大 20)。

表 4-1 セットアップコマンドパラメータ (続き)

パラメータ	定義
SET community names	SET アクセスを許可するコミュニティストリング、および対応する ACL (最大 20)。
trap managers (maximum 20)	トラップ マネージャの IP アドレス、コミュニティストリング、および SNMP バージョン。
Authentication Failure trap status	認証失敗トラップのステータスを設定します。
enterprise traps status	エンタープライズトラップのステータスを設定します。
system administrator	システム管理者の名前。
トポロジの設定 (すべてのプラットフォーム)	
connection mode	SCE プラットフォームが Bump-In-The-Wire (BITW) トポロジ (インライン) または光スプリッタか外部スイッチ (受信専用) を使用したアウトオブバンドでインストールされているか。
Admin status of the SCE platform after abnormal boot	障害によるリポートが発生したあとに、SCE プラットフォームを障害ステータスのままにするか、または他の問題が検出されない場合に動作可能ステータスに移行するか。
トポロジの設定 (SCE 1000)	
link bypass mode on operational status	SCE 1000 が動作可能な場合に、トラフィックをバイパスする必要があるかどうか。
redundant SCE 1000 platform?	冗長 SCE 1000 がバックアップとして取り付けられているかどうか。
link bypass mode on non-operational status	SCE 1000 が動作不能な場合に、トラフィックをバイパスするか、または切断するか。
トポロジの設定 (SCE 2000)	
type of deployment	2 台の SCE プラットフォームがカスケードポートを通して接続されたカスケードトポロジであるか。または、単一プラットフォームトポロジであるか。
physically connected link (カスケードトポロジの場合だけ)	カスケード配置の場合、この SCE 2000 が配置されたリンクのインデックスを設定します。SCE 2000 のオプションは link-0 または link-1 です。 単一 SCE 2000 プラットフォーム配置の場合、1 つの SCE 2000 が両方のリンク上に配置されているため、このパラメータは関連しません。この場合、ポート 1 ~ 2 に接続されたリンクがデフォルトで link-0 になり、ポート 3 ~ 4 に接続されたリンクがデフォルトで link-1 になります。
priority (カスケードトポロジの場合だけ)	カスケードトポロジの場合、この SCE 2000 がプライマリとセカンダリのいずれの SCE 2000 であるか。
on-failure behavior (インライン接続モードの場合だけ)	この SCE 2000 がインラインで配置されている場合、障害後にリンクをバイパスするか、または切断するか。

これらのパラメータの詳細については、このマニュアルの各セクションで説明しています。

SCE プラットフォーム トポロジの詳細と、セットアップ ユーティリティの詳しい操作手順については、『[Cisco SCE 2000 Installation and Configuration Guide](#)』または『[Cisco SCE 1000 2xGBE Installation and Configuration Guide](#)』を参照してください。

セットアップコマンドの入力

ステップ 1 SCE# プロンプトで、setup と入力し、**Enter** キーを押します。

次のようなダイアログが表示されます。

```
--- System Configuration Dialog ---
At any point you may enter a question mark '?' followed by 'Enter' for help.
Use ctrl-C to abort configuration dialog at any prompt.
Use ctrl-Z to jump to the end of the configuration dialog at any prompt.
Default settings are in square brackets '['].
Would you like to continue with the System Configuration Dialog? [yes/no]: y
system configuration dialog begins.
```

セットアップユーティリティでのリストの定義

複数エントリのパラメータ（リスト）

セットアップユーティリティを明示的に起動した場合、特定のパラメータについて、複数のエントリからなるリストを選択できます。

Access Control List (ACL; アクセス制御リスト) のように、実際に複数のエントリを含むリストであるパラメータもいくつかあります。これらのリストが空白（初期的な設定）または1つのエントリだけを含む場合には、スカラー値のパラメータと同様に動作しますが、リストの場合はエントリを追加できます。

これらのリストに複数のエントリがすでに入っている場合には、リスト全体が表示され、そのあとでいくつかのオプションが提示されます。次に、SNMP トラップ マネージャの抜粋を示し、リストエントリの設定方法を説明します。

ステップ 1 リスト内のエントリが表示されます。

```
There are 2 SNMP trap managers in the current configuration as follows:
IP address: 10.10.10.10 Community: privateVersion: 1
IP address: 10.11.10.1 Community: pcubeVersion: 2c
```

ステップ 2 3つのオプションが表示されます。



(注) テーブル内にエントリが1つしか存在しない場合、それはデフォルトの [] として表示され、そのまま採用するか変更することができます。3つのリスト オプションは表示されません。

```
Please choose one of the following options:
1. Leave the running configuration unchanged.
2. Clear the existing lists and configure new ones.
3. Add new entries.
Enter your choice:
```

ステップ 3 入力した選択項目に応じて、セットアップを続行するためのプロンプトが表示されます。

- 1. Leave the running configuration unchanged :
ダイアログは次の質問に進みます。リストは変更されません。
- 2. Clear the existing entries and configure new ones :
リストの新しいエントリを入力するように指示するプロンプトが表示されます。
最初のエントリを入力すると、さらに別の新しいエントリを追加するかどうかを質問されます。
Would you like to add another SNMP trap manager? [no]: y
リストは空白だったので、最大数までエントリを入力できます。
- 3. Add new entries :
リストの新しいエントリを入力するように指示するプロンプトが表示されます。
最初のエントリを入力すると、さらに別の新しいエントリを追加するかどうかを質問されます。
Would you like to add another SNMP trap manager? [no]: y
最大数に達するまで、エントリを追加できます。

SCE プラットフォーム ファイルの作業

CLI コマンドには、ファイル管理用のさまざまなコマンドがあります。これらのコマンドを使用して、ファイルやディレクトリを作成、削除、コピー、および表示できます。



(注)

ディスク容量について：ディスク処理を実行するとき、新しいファイルを追加して SCE ディスクに保存した結果、利用率が 70% を超えることがないように注意してください。

- 「ディレクトリの作業」(P.4-5)
- 「ファイルの作業」(P.4-7)

ディレクトリの作業

- 「ディレクトリを作成する方法」(P.4-5)
- 「ディレクトリを削除する方法」(P.4-6)
- 「ディレクトリを変更する方法」(P.4-6)
- 「ワーキング ディレクトリを表示する方法」(P.4-6)
- 「ディレクトリ内のファイルのリストを表示する方法」(P.4-6)

ディレクトリを作成する方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`mkdir directory-name` と入力し、**Enter** キーを押します。

ディレクトリを削除する方法

ディレクトリを削除するコマンドは 2 種類あり、ディレクトリが空白かどうかによって異なります。

- 「ディレクトリとそのファイルすべてを削除する方法」(P.4-6)
- 「空のディレクトリを削除する方法」(P.4-6)

ディレクトリとそのファイルすべてを削除する方法

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、**delete directory-name /recursive** と入力し、**Enter** キーを押します。
- recursive フラグを指定すると、すべてのファイルと指定したディレクトリに含まれているサブディレクトリが削除されます。
-

空のディレクトリを削除する方法

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、**rmdir directory-name** と入力し、**Enter** キーを押します。
- このコマンドは、空のディレクトリにだけ使用してください。
-

ディレクトリを変更する方法

このコマンドは、現在のワーキング ディレクトリのパスを変更するのに使用します。

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、**cd new path** と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ワーキング ディレクトリを表示する方法

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、**pwd** と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ディレクトリ内のファイルのリストを表示する方法

現在のワーキング ディレクトリにある全ファイルのリストを表示できます。このリストをフィルタリングして、アプリケーション ファイルだけを表示することもできます。また、リストを展開表示して、いずれかのサブディレクトリ内の全ファイルを含めることもできます。

- 「現在のディレクトリ内のファイルのリストを表示する方法」(P.4-7)
- 「現在のディレクトリ内のアプリケーションのリストを表示する方法」(P.4-7)
- 「ディレクトリ ファイルのリストにサブディレクトリ内のファイルも含める方法」(P.4-7)

現在のディレクトリ内のファイルのリストを表示する方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**dir** と入力し、**Enter** キーを押します。

現在のディレクトリ内のアプリケーションのリストを表示する方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**dir applications** と入力し、**Enter** キーを押します。

ディレクトリ ファイルのリストにサブディレクトリ内のファイルも含める方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**dir -r** と入力し、**Enter** キーを押します。

ファイルの作業

- 「ファイル名を変更する方法」(P.4-7)
- 「ファイルを削除する方法」(P.4-7)
- 「ファイルのコピー」(P.4-7)
- 「ファイルの内容を表示する方法」(P.4-8)
- 「ファイルを圧縮解除する方法」(P.4-8)

ファイル名を変更する方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**rename** *current-file-name* *new-file-name* と入力し、**Enter** キーを押します。

ファイルを削除する方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**delete** *file-name* と入力し、**Enter** キーを押します。

ファイルのコピー

現在のディレクトリから別のディレクトリにファイルをコピーできます。また、FTP サイトとの間でファイルをコピー（アップロードまたはダウンロード）することもできます。

パッシブ FTP を使用してファイルをコピーするには、**copy-passive** コマンドを使用します。

- 「ファイルをコピーする方法」(P.4-8)
- 「FTP サイトからファイルをダウンロードする方法」(P.4-8)
- 「ファイルをパッシブ FTP サイトにアップロードする方法」(P.4-8)

ファイルをコピーする方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**copy source-file-name destination-file-name** と入力し、**Enter** キーを押します。

ファイルのコピー：例

次の例は、ルート ディレクトリにある `analysis.sli` というローカル ファイルを `applications` ディレクトリにコピーします。

```
SCE#copy analysis.sli applications/analysis.sli
sce#
```

FTP サイトからファイルをダウンロードする方法

`copy` コマンドを使用して、FTP サイトにファイルをアップロードしたり、FTP サイトからファイルをダウンロードしたりできます。その場合、コピー元またはコピー先のファイル名の先頭を `ftp://` で始める必要があります。

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**copy ftp://source destination-file-name** と入力し、**Enter** キーを押します。
ファイルを FTP サイトにアップロードするには、コピー先に FTP サイトを指定します (`ftp://destination`)。

ファイルをパッシブ FTP サイトにアップロードする方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**copy-passive source-file-name ftp://destination** と入力し、**Enter** キーを押します。
ファイルをパッシブ FTP サイトからダウンロードするには、コピー元に FTP サイトを指定します (`ftp://source`)。

パッシブ FTP サイトへのファイルのアップロード：例

次の例は、ローカル フラッシュ ファイル システムにある `analysis.sli` ファイルを、パッシブ FTP を指定してホスト `10.1.1.105` にアップロードします。

```
SCE#copy-passive /appli/analysis.sli ftp://myname:mypw@10.1.1.105/p:/appli/analysis.sli
sce#
```

ファイルの内容を表示する方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**more file-name** と入力し、**Enter** キーを押します。

ファイルを圧縮解除する方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**unzip file-name** と入力し、**Enter** キーを押します。

ユーザ ログ

ユーザ ログは、任意のエディタで表示可能な ASCII ファイルです。起動、シャットダウン、エラーなど、システム イベントのレコードが格納されます。ユーザ ログを表示するには、ロガーを使用します。表示されたユーザ ログは、システムが正常に機能しているかどうかの判別や、テクニカル サポートに役立ちます。

- 「ロギング システム」 (P.4-9)
- 「テクニカル サポート用ファイルの生成」 (P.4-11)

ロギング システム

- 「ユーザ ログのコピー」 (P.4-9)
- 「ユーザ ログのイネーブル化とディセーブル化」 (P.4-10)
- 「ユーザ ログ カウンタの表示」 (P.4-10)
- 「ユーザ ログの表示」 (P.4-11)
- 「ユーザ ログの消去」 (P.4-11)

イベントは 2 つのログ ファイルのうちの 1 つに記録されます。ファイルが最大容量に達すると、そのファイルに記録されていたイベントは、一時的にアーカイブされます。その後、新しいイベントは代替ログ ファイルに自動的に記録されます。2 番めのログ ファイルが最大容量に達すると、ロギング イベントは最初のログ ファイルに戻され、ファイル内に保存されていた一時的なアーカイブ情報が上書きされます。

基本操作は次のとおりです。

- 外部送信元へのユーザ ログのコピー
- ユーザ ログの表示
- ユーザ ログの消去
- ユーザ ログ カウンタの表示と消去

ユーザ ログのコピー

ログ ファイルは、外部送信元またはディスクにコピーすることで表示できます。このコマンドを実行すると、両方のログ ファイルをローカルな SCE プラットフォーム ディスク、または FTP サーバが動作する外部ホストにコピーできます。

- 「外部送信元へのユーザ ログのコピー」 (P.4-9)
- 「内部送信元へのユーザ ログのコピー」 (P.4-10)

外部送信元へのユーザ ログのコピー

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**logger get user-log file-name ftp://username:password@ipaddress/path** と入力し、**Enter** キーを押します。

内部送信元へのユーザ ログのコピー

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、**logger get user-log file-name target-filename** と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ユーザ ログのイネーブル化とディセーブル化

ユーザ ログはデフォルトでイネーブルになっています。ロガーのステータスを設定することにより、ユーザ ログをディセーブルにできます。

ユーザ ログのディセーブル化

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、**configure** と入力し、**Enter** キーを押します。
- ステップ 2** SCE (config)# プロンプトで、**logger device User-File-Log disabled** と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ユーザ ログのイネーブル化

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、**configure** と入力し、**Enter** キーを押します。
- ステップ 2** SCE (config)# プロンプトで、**logger device User-File-Log enabled** と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ユーザ ログ カウンタの表示

- 「現在のセッションのユーザ ログ カウンタの表示」 (P.4-10)
- 「ユーザ ログ ファイルとデバッグ ログ ファイル両方の不揮発性ロガー カウンタの表示」 (P.4-10)
- 「ユーザ ファイル ログの不揮発性カウンタだけの表示」 (P.4-11)

ログ カウンタには次の 2 種類があります。

- ユーザ ログ カウンタ : SCE プラットフォームの前のレポート以降に記録されたシステム イベント数をカウントします。
- 不揮発性カウンタ : 起動時に消去されません。

現在のセッションのユーザ ログ カウンタの表示

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、**show logger device user-file-log counters** と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ユーザ ログ ファイルとデバッグ ログ ファイル両方の不揮発性ロガー カウンタの表示

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、**show logger nv-counters** と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ユーザ ファイル ログの不揮発性カウンタだけの表示

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**show logger device user-file-log nv-counters** と入力し、**Enter** キーを押します。

ユーザ ログの表示



(注)

ユーザ ログが大容量の場合は、このコマンドの使用は推奨しません。巨大なログはファイルにコピーして表示します（「ユーザ ログのコピー」(P.4-9) を参照してください）。

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**more user-log** と入力し、**Enter** キーを押します。

ユーザ ログの消去

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**clear logger device user-file-log** と入力し、**Enter** キーを押します。

ステップ 2 **Are you sure?** という確認メッセージが表示されます。

ステップ 3 **y** と入力し、**Enter** キーを押します。

テクニカル サポート用ファイルの生成

効果的なテクニカル サポートが受けられるようにするには、システム ログに含まれる情報を提供する必要があります。シスコ テクニカル サポート スタッフが使用するサポート ファイルを FTP 経由で生成するには、**logger get support-file** コマンドを使用します。

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**logger get support-file filename** と入力し、**Enter** キーを押します。

サポート情報が指定したファイル名で作成されます。指定するファイルは、ローカル ファイル システム上ではなく FTP サイトに置かれているファイルでなければなりません。

この処理には少し時間がかかる場合があります。

テクニカル サポート用ファイルの生成：例

```
SCE# logger get support-file ftp://user:1234@10.10.10.10/c:/support.zip
```

フロー キャプチャ

- 「制限事項」 (P.4-12)
- 「フロー キャプチャ プロセス」 (P.4-12)

フロー キャプチャ ユーティリティは、CLI で制御されるユーティリティで、レイヤ 4 属性に従ってトラフィックをキャプチャするのに使用されます。

このユーティリティでキャプチャされたトラフィックは、`cap` 形式のファイルに蓄積されていきます。キャプチャ メカニズムにより識別されたトラフィックは、キャプチャが継続している間は、トラフィック制御からもどのサービスからも利用できません。キャプチャが完了すると、すべてのトラフィックに対する通常のサービスが再開されます。

記録されたデータは、FTP を使用してオンラインで遠隔地に送信されます。データは、標準形式で送信され、SCE 2000 上で無制限のサイズを持つことができます。

制限事項

フロー キャプチャ ユーティリティには、次の既知の制限事項があります。

- 実際のキャプチャは、新しく開かれたフローに対してしか開始されません。このため、すでに開いているフローは、このユーティリティではキャプチャできません。
- キャプチャ フローの終了は、キャプチャされているすべての新しい関連パケットに対して確認されます。時間が超過した後、キャプチャ属性に一致するパケットが届かない限り、キャプチャは停止せず、手動で停止する必要があります。
- キャプチャは、SCE プラットフォームでのイベントの不足が原因で早く終了する場合があります。
- スループットのキャプチャは、次の事項によって制限されます。
 - システム アーキテクチャ上の制限。
 - リモートの FTP 送信先への回線容量 (SCE 2000 などの Linux プラットフォーム以外のプラットフォームの場合だけ)。

ライブセットアップでのおよそのスループットは、2Mbps です。このスループットを超過すると、パケットが `cap` ファイルから欠け、失われたパケットの数を示すために、以降にキャプチャされたパケットの該当するフィールドが更新されます。許容される連続損失パケットの最大数は、`const DB` によって設定可能です。

フロー キャプチャ プロセス

次の 3 つの主な手順が、フロー キャプチャ プロセス全体に含まれます。

1. キャプチャされるトラフィックを定義するために、トラフィック ルールを定義します (「[フロー キャプチャ トラフィック ルールの設定](#)」 (P.4-13))。
2. フロー キャプチャ設定値を設定します (任意) (「[フロー キャプチャ設定値の設定](#)」 (P.4-13))。
3. 実際のフロー キャプチャを実行します (「[フロー キャプチャの実行](#)」 (P.4-14))。

フロー キャプチャ トラフィック ルールの設定

フロー キャプチャ トラフィック ルールで、キャプチャするトラフィックを定義します。フロー キャプチャ トラフィック ルールを設定するには、関連するフローに対する **flow-capture** アクションを指定します。

たとえば、IP アドレスが 1.2.3.0 ~ 1.2.3.255 の範囲内にあるサブスクリバとの間で送受信したトラフィックをすべてキャプチャするには、次のようなトラフィック ルールを定義します。

```
SCE(config if)# traffic-rule name flowcapture rule IP-addresses subscriber-side 1.2.3.0/24
network-side all protocol all direction both traffic-counter none action flow-capture
```

複数のルールを設定できますが、フロー キャプチャ プロセスが実行されている間は、設定したすべてのフロー キャプチャ ルールが有効になることを覚えておいてください。設定済みのルールの一部分だけを適用することはできません。

トラフィック ルールの設定の詳細については、「[トラフィック規則とカウンタの設定](#)」(P.6-17) を参照してください。

フロー キャプチャ設定値の設定

フロー キャプチャ設定値は、キャプチャするフローを定義するのとは違って、フロー キャプチャ プロセスのさまざまな面を制御します。これらの設定は、記録される情報を最大にしなが、トラフィックに対する影響を最小限にとどめるために、プロセスの範囲を制限します。

- **Maximum duration of the capture** : キャプチャの継続時間を制限することにより、生のトラフィックに対するキャプチャの影響を制限できます。

最大継続時間が経過する前でも、任意のタイミングでキャプチャを停止できます。

- **Maximum length of the L4 payload of each captured packet** : 主に L2 ~ L4 ヘッダーをキャプチャしたい場合は、各パケットのペイロードのごく一部分しか必要ありません。ペイロードの長さに制限を設定すると、同じ時間内に同じスループットでより多くのパケットをキャプチャできるようになり、キャプチャの効率が上がります。

ガイドラインと情報

- L4 ペイロードの最大の長さが設定されていない場合は、キャプチャされた各パケットの全バイトが記録されます。
- L4 ペイロードの最大の長さが設定されている場合は、キャプチャされた各パケットに L2/L3/L4 ヘッダー全体が含まれ、L4 ペイロードは設定されている最大バイト以内で含まれます。
- L4 ペイロードの最大の長さは、1 つしか設定できません。この値は、記録されるすべてのパケットに適用されます。
- 記録の実行中に L4 ペイロードの最大の長さが変更された場合、変更後の値は、次の記録セッションまでは有効になりません。
- キャプチャしたパケットでは失われた部分があるため TCP および UDP のチェックサムの有効性はチェックできないので、**cap** ファイルには、SCE プラットフォームで受信されたときに TCP または UDP のチェックサム エラーがあったパケットのマーキングが含まれます。
- **cap** ファイルには、切り詰められた各パケットの元の長さを取得するための情報も含まれています。

フロー キャプチャの最大継続時間を設定する方法

次のオプションを使用できます。

- **duration** : フロー キャプチャの最大継続時間 (秒)。
デフォルト = 3600 秒
- **unlimited** : フロー キャプチャに対する時間制限はなくなり、オペレータによって停止されるまでフロー キャプチャが続行されます。

ステップ 1 SCE(config if)# プロンプトで、**flow-capture controllers time (duration | unlimited)** と入力し、**Enter** キーを押します。

L4 ペイロードの最大長を設定する方法

次のオプションを使用できます。

- **length** : 各パケットからキャプチャする L4 ペイロードの最大バイト数。
- **unlimited** : L4 ペイロードのバイト数に制限がなくなります (デフォルト)。

ステップ 1 SCE(config if)# プロンプトで、**flow-capture controllers max-l4-payload-length (length | unlimited)** と入力し、**Enter** キーを押します。

デフォルトのフロー キャプチャ設定に戻す方法

ステップ 1 SCE(config if)# プロンプトで、**default flow-capture controllers (time | max-l4-payload-length)** と入力し、**Enter** キーを押します。

フロー キャプチャの実行

フロー キャプチャは、**flow-capture** コマンドを実行すると開始されます。キャプチャは、いつでも停止できます。キャプチャは、停止されないと、設定されている最大継続時間の間、続行されます (「[フロー キャプチャ設定値の設定](#)」(P.4-13))。

フロー キャプチャを開始する方法

次のオプションを使用できます。

- **filename** : フロー キャプチャ データの記録先の名前と FTP の場所。
ftp://<username>:<password>@<IP_address>/<path>/<file_name> の形式で指定します。

ステップ 1 SCE(config if)# プロンプトで、**flow-capture start format cap filename** と入力し、**Enter** キーを押します。

フロー キャプチャを停止する方法

ステップ 1 SCE(config if)# プロンプトで、**flow-capture stop** と入力し、**Enter** キーを押します。

フロー キャプチャのモニタリング

次のコマンドを使用して、フロー キャプチャ プロセスをモニタリングできます。次の情報が表示されます。

- 記録プロセスのステータス
- 現在のターゲット ファイルのサイズ
- キャプチャされたパケットの数
- 損失したパケットの数
- それぞれのコントローラに設定されている値

フロー キャプチャをモニタリングする方法

ステップ 1 SCE> プロンプトで、**show interface linecard 0 flow-capture** と入力し、**Enter** キーを押します。
